

会 議 録				
平成22年度第4回 社会教育委員の会議	日 時	平成22年8月25日(水) 午後1時30分～3時30分	場 所	小金井市役所第二庁舎 8階801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出 席 者	委 員	伊藤、浦野、倉持、小林、樹、中村、本多、本川、各委員 (欠席委員)田尻、吉池 各委員		
	その他	渡辺生涯学習部長、尾崎生涯学習課長、宮腰スポーツ振興担当課長、田 中図書館長、大関公民館長、渡辺公民館事業係長		
	事務局	林生涯学習係主事		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
次 第				
1. 協議事項				
(1) 平成23年度社会教育委員の会議視察研修について				
(2) その他				
2. 報告事項				
(1) 都市社連協理事会の報告について				
(2) 平成22年度第一回小委員会の開催結果について				
(3) 地域センター施設研究講座の開催結果について				
(4) その他				
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
1. 協議事項				
(1) 平成23年度社会教育委員の会議視察研修について				
(本川議長)				
社会教育委員の会議の視察研修についてだが、どこか希望はあるだろうか。以前、 武蔵境駅に建設予定の施設を見学に行ったらどうだろうかと話が出ていたが。事務局 どうだったか。				
(事務局)				
武蔵野市に確認したところ、当該施設は来年度の秋完成予定となっているので、早 くても平成23年11月以降の日程が望ましいということである。				
(本川議長)				
11月は三者懇談会もあるし、都市社連協も11月に例年予定されているので、1 月か2月ということになる。この日程は来期の社会教育委員の会議での視察というこ				

とになる。

(浦野委員)

杉並区にある、「ゆう杉並」児童青少年センターはどうか。以前行ったが、とてもいい施設だった。子どもの居場所作りについてしっかり取り組んでいる施設であると感じた。ここであれば9月までに行くことも可能である。

(中村委員)

9月前となると、例年第1回の会議は新年度予算の説明等で費やされていたように思う。2回目は、補助金関係の協議あったが、これを4月にできれば第2回に視察に行くことも可能であるが、他の委員の都合はどうか、

(倉持委員)

7月は忙しいが杉並は近いので参加できるかもしれない。せっかく杉並に行くのであれば、「ゆう杉並」は非常に有名な施設だが、杉並区は市民協働についても先進的な事例も多いので、そのような話を聞くのも勉強になると思う。

(本川議長)

7月20日を第一候補として、詳細は今後検討することとする。

## 2. 報告事項

### (1) 都市社連協理事会の報告について

(本川議長)

都市社連協理事会が7月22日に武蔵村山で行われ、私と事務局で出席した。協議事項は、ブロック研修会、交流会の方法についてと、全国社会教育委員連合会の表彰候補の推薦について。平成22年度の東京都市町村社会教育委員連絡協議会表彰についての協議があった。以前にも理事会の報告もしたが、5ブロックの研修会についてである。今回は武蔵野が幹事市で、調布・武蔵野・小金井の3市が事例発表を担当することとなった。科学の祭典については事務局に協力を依頼し、全市的な部分を社会教育委員が発表できればと考えている。

(倉持委員)

武蔵野市の意図としては、社会教育委員のメンバーが、市の社会教育との位置付けを考えながら1つの事例を報告するイメージを持っていると思う。3市それぞれの事例を聞き、その後意見交換するイメージだ。事例を詳しく説明するだけであれば当事者の方がたくさん語っていただければいいが、今回は時間が短いし3市分の、それぞれ大きな事業のものなので、ボリュームもあると思うので、難しい部分もあるかと思う。

(本川議長)

科学の祭典には中学生ボランティアがたくさん出ている。実行委員会、学校側それぞれの思いが一番よくわかっているのが、今の事務局長ではないかと考えていた。

(中村委員)

発表者について事務局どうか。

(事務局)

武蔵野市に確認したところ、発表者に関しては社会教育委員でも実際に事業を運営している方でも、基本的にはどちらでもいいとのことであった。

(2) 平成22年度第一回小委員会の開催結果について

(伊藤副議長)

第1回の概要としては、今年度の小委員会のテーマについてであった。また、第5ブロック。小金井としては、学校と家庭、子どもたちとどう関わっていくのかをメインに進めようという話し合いだった。小金井は中学生ボランティアが非常に先進的な活動をしており、科学の祭典、スリーデーマーチ、地域の清掃活動等、子どもたちが積極的に関わっていて、保護者の理解も得られている。5ブロックの研修ではそういう方向の話をしようという話をしていた。補足があればお願いしたい。

(樹委員)

生涯学習情報に関して中央で集約できるようなセンターが欲しいという話もあった。社会教育委員としてどのような機能が小金井市不足しているのか検討するべきであるというような議論である。三鷹市の協働センターを視察したが、協働には協働の、公民館には公民館の様々な制約があるようだった。小金井市としてはどのような形式が一番ふさわしいか、可能かどうかは別にして、こういうものがあつたらいいなというものを積み重ねて形を作って行ってはどうかということであった。

また多摩26市に教育委員が所管している中央機能を持つ生涯学習センターがどれだけあるか事務局に簡単な調査を頼んだ。

(本川議長)

事務局からその資料を預かっているので配布する。

(伊藤副議長)

いわゆるセンターがあるのが10市程度か。思ったよりは少ないという気がする。

(本川議長)

小金井市には名称は別にしてキーステーション・本拠地になるような施設が無い。公民館は5館あるが、そのようなセンター機能を保有している館はあるか。

(渡辺生涯学習部長)

各市歴史的な背景がある。小金井は公民館が前面に出ている。例えば国分寺も小金井と似ているが、武蔵野市や三鷹市はまた違っている。ただし、最近の傾向としては、生涯学習を前面に出すほうが強くはなっているように感じている。小金井でも組織の名称は社会教育から生涯学習になった。そういう形では移行しているが、生涯学習センターを作る計画はない。生涯学習センターの機能と、公民館の機能をどうやって融合させるのか、移行させるのか、共存させるのか、そういったところは未整理であ

る。

(本川議長)

地域教育会議のような提言は残っているが、それを実現するのは簡単ではない。この25期がどこまでできるかわからないが、何らかの形ではまとめていきたい。

(浦野委員)

貫井北町地域センターの研究講座に参加して感じたことだが小金井市の社会教育を、このまま社会教育でやっていくのか、生涯学習でやっていくのか。それについて、私たち社会教育委員も考える必要があるのではないかと思う。

(倉持委員)

公民館があるかないかは大きな転換点になる。小金井の公民館活動はかなり蓄積があり、活動・拠点が地域と共に育ってきた経過があるので、その部分を確認しながら進めていく必要があるように思う。

### (3) 地域センター施設研究講座の開催結果について

(大関公民館長)

研究講座の開催結果についてご報告する。まずは資料をご覧ください。内容には全14回のうち、既に開催した9回分の結果をまとめたものである。詳細についてはご覧くださいと思う。また、本日は事務局の職員が来ているので質問があればしてほしい。

(中村委員)

私は7月10日の「社会教育施設だからできる」、24日の「現地で考える図書館の魅力」の2回に参加した。10日の「社会教育施設だからできる」というテーマについては、『月刊社会教育』編集長の谷口郁子さんであった。公民館においては社会教育法によって、政治、宗教、利用団体が規制されている。そういう団体が使ってはならないという法解釈も非常に勉強になった。24日の「現地で考える図書館の魅力」については、実際に調布の図書館に行って勉強したが、非常にすばらしい図書館であった。設備もコンセプトもすばらしい。閲覧スペースもそうだったし、例えばハンディキャップのある方に対する施設の充実感、あるいは学習室も区切られていなくて、わりと開放的なところで読書ができる配慮等、とても素晴らしかった。2回の出席だったが内容の濃い講座であった。

(浦野委員)

私は8月9日「地域に溶け込む施設とは」に出席した。地域に溶け込む施設とは、人が集まるもの、一体化になる、活動の継続ができる、そういった施設が大切だということでお話しされた。例えば日本で初めてオープン施設をつくった愛知県の公民館は、あまりにもオープン過ぎて地域の人には使い方がわからないというような紹介もあった。あまりに先進的過ぎると、地域の人たちがついていけない場合もある。また、

子どもが来るということは非常に重要で、公民館で子育てができるということも大切だという話もあった。そこで育った子どもたちが、何年か先には地域で活躍する人材になっていくのである。社会教育と学校教育の関係性についても話が出ていた。今、学校教育の中に、地域や社会が支援という言葉で進出していつているが、そこには慎重さも必要で学校教育が社会教育に吸収されて失われるものも多いのではないかと  
いう言葉を投げかけられており、考えさせられる言葉であった。また機会があったら、このことについてお話を聞きたい。

(小林委員)

せっかく担当者が来ているので、テーマの組み立て、苦労した点等、お聞きできればありがたいのだが。

(事務局)

公民館の講座は、全て市民参加で企画している。今回も準備会を開催し公民館の企画実行委員の皆様と力を合わせて講座を組み立てた。今日の議論と非常に似ているが、市民が活動するときの中心機能として求められるものはなんだろうかということである。あるいは公民館と図書館という大きな2つの機能があるので、それを個別に学習し、その関係を考えたいという意見があった。そのほかには、ユニバーサルデザインの考え方を研究したいとか、若者の居場所について考えたいという議論があったので、それを中心に柱立てをしてこういう形になった。

(大関公民館長)

補足をしたい。この事業は東京都からの「多摩・島しょ地域力の向上事業助成金」という新たな助成制度を利用している。団塊の世代関係、高齢者関係、子育て関係の3つの講座を22年度から行っている。3か年行う予定である。

(4) その他

(浦野委員)

図書館本館地下集会室で図書館協議会主催の図書館協議会フォーラムを開催する。10月3日(日)午後1時半からを予定している。「小金井市立図書館のいまとこれからを考える」というテーマでフォーラムを開催するので、お時間のある方はぜひ参加して欲しい。

(中村委員)

8月11日に第2回(仮称)貫井北町地域センター建設市民検討委員会があったので報告する。まず前川建築設計事務所から前回までの質問事項の回答があった。また、市民の声を聴く会の報告があった。平面計画について、具体的には図書館についての要望事項、駐車場についての要望事項、公民館部分についての要望事項等、各委員からの意見の集約がなされた。駐車場については前川建築設計事務所のほうから2案が出された。A案については4台駐車、一般利用者2台、駐輪場90台、これがA案。

それからB案については8台駐車、一般利用者が6台、駐輪場80台のどちらにするかというヒアリングがあり、委員会としては賛成多数でA案、つまり一般利用者2台、駐輪場90台のほうを採択したということである。図書館協議会の松尾委員のほうからお話があった点で、春に社会教育委員会、公民館運営審議会、図書館協議会の三者懇があり、共用でも構わないので集まれるスペースが欲しいとの意見があったという発言があった。それについての市からの回答としては、三者懇のスペースというのは、市としては受け入れがたいというお話があった。要点は大体そういう感じである。

(大関公民館長)

駐車場の件に関して補足したい。確かに4台スペースがあるが、先ほど、2台が一般用の駐車場とおっしゃっていたが、これは決定していることではなくて、身障者用とサービス用で2台、もう2台スペースはあるが、これは今後の検討事項である。以上である。

(渡辺生涯学習部長)

現在、公民館の利用については全館で駐車場利用はできないという案内になっており、荷物の搬入等特別な事由がある場合には別途対応するような運用になっている。その運用は大事にするべきであるという意見は複数の委員からあり、館長の言うとおりに検討課題としてある程度残るが、現行の運用は大事にしていきたいと考えている。

(浦野委員)

市民の声を聴く会が3回あったので、その報告して欲しい。

(大関公民館長)

開催日時は8月1日の2時から、8月2日の2時からと6時から、計3回行った。いずれも、801会議室である。参加市民は、1回目が10名、2回目が5名、3回目が4名、合計19名である。内訳は男性が11名と女性が8名である。以上である。

以上